

ぼくも戦争が大きらい

三次市立十日市小学校
第6学年 岡本 慶

ぼくも戦争が大きい

三次市立十日市小学校六年 岡本 慶

戦争が好きという人はとても少なく、嫌いだという人がほとんどだと思います。しかし、戦争が始まりそうな時、身を張ってでも戦争を止めようとする人はあまりいないと思います。それは、終戦から七十二年が経って、戦争を経験したことが無い人が増えてきたせいだと思います。

五ほくは戦争が大きいという本を読みました。作者であるやなせたかしさんは、昭和十五年に徴兵され、昭和十八年から終戦まで中国大陸で野戦重砲部隊に所属していました。愛と勇気のアンパンマンの作者としても有名で、アンパンマンマーチの歌詞は戦争の写真や動画を見ながら聞くと、心いうたえかけてくるものがあります。やなせたかしさんか、中国大陸で軍人として参戦していたことは意外と知られていないように思います。実際に戦争を経験した作者の、人を殺す戦争

でしようか。このように、戦争を経験していなくても想像して思いを共有できます。これは、人間にしかできないことだと思います。戦争が好きと言っている人はきつと、想像力が欠けている人なんだと思います。戦争が起これば、実銃を持つことができ、勇敢に敵を打ち破って行く自分の姿しかないのだと思います。この本を読んで、戦争を経験した人達、していない人達が協力して平和を築いていかなければいけないことが分かりました。また、国際的な時代に、日本だけの平和を考えても実際の平和を築くことができないということも分かりました。必要以上に資源を取らない、富を分け合うという姿勢が、戦争を起こさないために必要だと思います。今は子どもですが、もう数年すれば選挙権を持つことができるので、世界の平和を考え、しっかり想像できる人に票を入れたいと強く思うようになりました。とても大切なことを

思うようにさせてくれたこの本に感謝したい
です。

〈指導者の言葉〉

この著書は、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんが、亡くなられる少し前に、それまであまり触れてこなかった戦争体験について語られまとめられた内容です。

前年、「ともに生きていくために」という総合的な学習の中で、自分が設定した探究課題として、原爆開発の謎を調べて核兵器の非人道性を感じながら、核兵器を減らしていくことの大切さをまとめる学習を自分なりに積み重ねてきました。

児童は6年生になり、歴史学習も始まると争いの歴史事実をより実感しながら、時事問題にも大きく関心を寄せていました。この作品は、国語科の「未来がよりよくあるために」という視点での意見文を書くための自己学習で、ズバリ、タイトルに魅かれて手にした『ぼくは戦争は大きらい』という本に感銘を受けて書きまとめた感想文です。以下の視点に留意をさせました。

- ① 印象に残った言葉を中心に筆者の意図に迫る
- ② 自分との関わり・つながりを追究する
- ③ 自分の中に深まった考えを分かりやすく構成してまとめる

自分の近親から感じとれる事実としての戦争、そしてずっと心に留まっていた憂いが、筆者の明言にもいざなわれて、強い考えを構築していつています。自分も平和な社会に生きていく一人の主権者として、すでに自覚高く近い未来への決意を最後には表しています。こと穏やかに友だちに接したり、あらゆる場面で友だちに寄り添える彼の根っからの優しさが、平和を願い不合理に立ち向かう姿勢という形で力強く浮き出た作品です。